

INFORMATION *Circular*

THE JAPANESE SOCIETY OF DEVELOPMENTAL BIOLOGISTS

<http://www.bcasj.or.jp/jsdb>

サーキュラーのweb化に関するアンケート用紙、同封!

■ 第35回(2002年度)日本発生生物学会大会のお知らせ	1
■ 第14回国際発生生物学会大会(第34回日本発生生物学会大会)の総括	2
■ 国際発生生物学会大会参加記	4
■ 日本発生生物学会運営委員会議事録	6
■ 第34回 日本発生生物学会総会議事録	12
■ DGD編集委員会より	15
■ DGDのオンライン化について	16
■ サーキュラーのWeb化についてのアンケート	18
■ 研究助成金・各種募集案内	20
■ 研究集会・シンポジウム案内	28
■ 会員異動	32
■ 入会案内・広告掲載のお願い	40

NO.99

SEPTEMBER 2001

日本発生生物学会

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉

東北大学大学院理学研究科生物学

会 長：〒 606 京都市左京区北白川迫分町
-8520 京都大学大学院生命科学研究科
竹市雅俊 (Tel : 075-753-4196)
(Fax: 075-753-4197)
(e-mail: takeich @ take. biophys. kyoto-u. ac. jp)

D G D 編集主幹：〒 153 東京都目黒区駒場 3 - 8 - 1
-8902 京都大学大学院総合文化研究科生命系
浅島 誠 (Tel : 03-5454-6632)
(Fax: 03-5454-4330)
(e-mail: asashi @ bio. c. u-tokyo. ac. jp)

事 務 局：〒 980 仙台市青葉区荒巻字青葉
-8578 東北大学大学院理学研究科生物学教室
Tel: 022-217-3489 Fax: 022-217-3489
e-mail: jsdb@jcasj.or.jp
(幹 事 長) 井出宏之 (Tel: 022-217-6691)
(庶務幹事) 田村宏治 (Tel: 022-217-3489)
(会計幹事) 出口竜作 (Tel: 022-214-3413)

学会センター：〒 113 東京都文京区本駒込 5 - 16 - 9
-8622 財団法人 学会事務センター
日本発生物学会担当係 (Tel: 03-5814-5810)
e-mail: jsdb @ bcasi. or. jp

日本発生物学会への入退会，住所・所属変更，会費納入，および出版物（インフォメーション・サーキュラーなど）の郵送については，上記の日本学会事務センターに書面または e-mail でお問い合わせ下さい。なお D G D につきましては直接，ブラックウェルサイエンス社にお願いいたします (Fax: +61-39349-3016)。

サーキュラーへの投稿募集

日本発生物学会サーキュラーは会員の皆様の情報誌として年 3 回発刊されます。学会に対する提言，研究雑感，実験手法，学会見聞記，関連学会案内，書評などのような内容でも結構ですので，是非事務局にお寄せ下さい。

第35回 日本発生生物学会大会のおしらせ

上記大会は、細胞生物学会との合同大会として、以下のように開催されます。

日程：平成14年5月21日（火）～23日（木）

会場：パシフィコ横浜

責任者：八杉貞雄（東京都立大学）

この学会では、一般演題はすべてポスター発表とし、発生生物学会、細胞生物学会合同のシンポジウムを3つ、両学会それぞれのシンポジウムを合計17行う予定です。それぞれの内容については、会員の皆様にはメールで企画を募集いたしました。募集は9月末日で締め切り、現在両学会のシンポジウム担当者が内容を検討しているところですが、ご意見のある方は、西駕秀俊委員（東京都立大学）までお寄せ下さい。

またこの期間中、文部科学省特定研究「発生システムのダイナミクス」（代表者：上野直人教授（基生研））主催のシンポジウムも開催する予定です。

参加申し込みなどの詳細は、サーキュラー12月号に掲載いたします。

お問い合わせは、八杉貞雄（電話：0426-77-2572、ファックス：0426-77-2559、Email：yasugi-sadao@c.metro-u.ac.jp）まで。

国際発生生物学会議を盛り上げていただき感謝いたします

会長 竹 市 雅 俊

第14回国際会議は、第34回日本発生生物学会大会との合同会議として、予定通り平成13年7月8日から12日に亘って京都国際会議場において開催され、総登録者数1,498人（参加国数33カ国）という、当初の予想（1,000～1,200人）を遥かに上回る参加者を迎えることができました。第13回大会（米国スノーボード）の参加者が約1,000人とのことなので、飛躍的な増加です。多数の会員・非会員の皆様が積極的に参加していただいたお蔭であると感謝しております。また、近年、発生生物学分野に対する関心・期待が急速に高まっていることも、この会議が盛り上がった一因でしょうか。本会議では、これに対応して、シン

ポジウム・ワークショップのテーマ設定において、従来から続く基礎発生生物学の諸問題だけでなく、医学応用につながる研究、さらにはそのような研究の倫理に関する問題なども取り上げ、いずれのセッションも盛況でした。さらに総会では、国際発生生物学会として、ヒトのクローニングに対してのモラトリアム宣言を決議いたしました。動物のクローニング法を研究・開発してきた発生生物学者自身が、この問題に関する意見を述べることは一種の社会的責任であるとかねがね思っておりましたが、今回の声明の社会的意義は大きいと感じております。

シンポジウム、ワークショップ、ポスター発表では、個人レベルでも有意義な国際交流が多々あったと思いますが、特に、大学院生等若い研究者の方々にとって海外学者と直接討論を行うなどの意義は大きかったはずで、得られた刺激が今後の研究の新たな動機付けになるなら、このような会議を開催した意味があったというものです。国際会議でのご経験を是非とも生かしてください。なお、Science 誌 (293巻、8月3日号) に、学会見聞録が掲載されています。

次回は、オーストラリアで開催予定です。4年後の発生生物学はどうなっているのでしょうか、楽しみです。

第14回国際発生生物学会参加記

国立遺伝学研究所 牧 野 茂

「ネズミの指はなぜ5本なの？」という疑問を持ってこの世界に飛び込んではや4年、私にとって初めての国際発生生物学会は、梅雨の明けた京都で行われました。行き届いた進行の裏には、運営委員の方々の大変な準備があったことと思います。多くのポスターセッションは一部屋一テーマで、各部屋が独特の雰囲気醸し出していたのが印象的でした。さて、参加記を依頼されたものの過去の参加記には名文も多く、何を書いたものかと途方に暮れてしまいました。そこで、例年とはちょっと違った角度から、本年度の感想と来年度の年会に向けた意見を書いてみました。

今年の国際発生生物学会における大きなイベントの一つとして、「Resolution on reproductive cloning」がありました。宣言文を一部抜粋すると、「We as developmental biologists attending the 14th ICDB do hereby declare and promote an international

moratorium against reproductive cloning of people.」です。この問題は、科学的安全性の評価に加えて、生命観や経済的利害が絡んで、今後さらに大きな問題になっていくことが予想されます。幸いにもまだ不幸な「人体実験」が行われていない今、我々専門家が正確な情報と良識を社会に提供していくことは、非常に意味があると考えます。また、「reproductive cloning」の問題以外にも生命科学の分野は、様々な社会活動との密接な関連を求められています。例えば、膨大な国家予算を使って行われているゲノム解析の結果を、社会にどのように還元していくかは重要な問題となっています。激しい特許戦争の中、日本人研究者によるスパイ疑惑などによりますます社会の大きな関心を引きつけています。このような時代の要請により、我々発生生物学者もただ研究室に閉じこもっているだけでなく、社会と密接な関係を持ち、情報や考えを世の中に発信していくという重責を担っていることを痛感させられました。

ところで、私の最初の研究目的は「ネズミの指はなぜ5本なの？」です。直接的には金にもならないし、人類の生活を快適にするような研究でもありません。この学会の何割か、おそらく半分以上はそのような研究ではないでしょうか？そして、みなさまは「楽しいから」この種の研究をやっておられるものと考えます。我々の使命は、専門家として社会に提言をする事、経済的繁栄や人類の健康をもたらす事、そして世の中に生命現象のすばらしさを伝える事であると思います。

京都では、国際学会にふさわしい、数多くの重要な知見が発表されました。しかし、世界の一流研究者が集まっている中、「楽しさ」に関する社会への発信は非常に乏しかったのではないのでしょうか？例えば、本会に対するマスコミの扱いは非常に小さかったように思われますし、一般公開講座のような物もありませんでした。また、せっかくの発生生物学会のホームページも一般の人が見ることを想定していないように思われます。来年は、国内の開催で部外の人にいろいろと発信していく機会も増えると思います。社会的な提言に加えて、我々の最大の武器である「楽しさ」を、社会の多くの人へももっともっと発信していきませんか？「楽しさ」こそが、発生生物学会の最大の原動力だと思うのですが！

「どのような問いを立てるか」が問われる時代へ —ICDB2001体験記—

京都大学人文科学研究所 加藤 和人

今年の夏は本当に暑かった。例年なら梅雨の終わりに当たる7月上旬には、すでに真夏の太陽がかんかん照っていた。今夏の猛暑を最初から予想できる人はいなかっただろうが、蒸し暑いことで知られる日本の夏に行なわれる会議に、どれくらいの外国人が参加するのだろうか。何よりも、自分としては、ウィーンで行なわれた第12回大会以来の国際発生生物学会への参加。どんな新しい話が聞けるだろうかと、大いに期待して望んだ。

結果として、約1500人の参加者があり、そのうち300~400人が外国人だったそうで、欧米から遠い日本で行われた会議としては、大いに成功だったと言えるのではないかな。まずは大会委員長の竹市先生と運営に当たられた方々に敬意を表したい。

ゲノム解析が多くの生物で行われ、発生現象に関わる遺伝子・分子が多数報告されるようになると、その先、いかに断片的な情報を統合し、全体像を描くかが問題になる。初日のプレナリーレクチャーで、Peter Grussが目の発生について、Corey Goodmanが神経の標的認識について行ったサマリーは、なるほどこのように物事は整理されていくのか、という印象を持たせてくれる見事な講演だった。一方、会期が進むにつれ、多数の遺伝子や分子を羅列するような発表もあった。発表者自身が個々の分子の役割を整理しきれないでいることと、そもそも発生現象が分子レベルで見れば相当に複雑であることの表れなのだろうが、もう少し発表の仕方に工夫がほしいと思うことがあった。Walter Gehringのグループの発表で、目の発生には2千個以上の分子が関与するというコメントがあった（この発表自体は面白かった）が、ゲノム情報を使った網羅的な研究から本当に新しいことが見えてくるには、まだ時間がかかりそうだ。

もちろん、遺伝子のネットワークや分子的制御の全体像を求めるだけが、発生生物学のすべてではない。今回の大会ですばらしいと思ったのは、マイクロアレイを用いたゲノムワイドの解析がある一方で、古典的な発生学的アプローチや、個別の分子にとらわれない見方から問題に迫ろうという研究など、バラエティーに富んだ研究が多数あったことだ。イギリス・ケンブリッジのグループによる、マウス受精卵の精子侵入部位と体軸形成との関係に関する発表では、「こんな重要な問いが残っていたのか」と感心させられた。徳島大の近藤滋氏による発表は、今回最もエレガントだと思った発表の一つだが、ニワトリ胚を引っ張って伸ばすという単純な実験操作（林茂生氏が、「反則や！」と、賞賛を込めて

コメントしていた)を使って、体節形成にチューリングの反応拡散波が働くことを実証するものだった。ともすれば情報過多になる時代だからこそ、「どのような問い」に、「どのような方法」で迫るかに、研究者の個性が表れるのではないか。日本の発生生物学においても、今以上に個性溢れる研究が、特に若い人たちから生まれることを期待したいと思った。

ところで、自分自身のポスターでも述べたが、長い間、社会的な問題とは比較的無縁だった発生生物学が、ここ数年、一気に社会と関わり出している。一つはクローンの問題であり、もう一つは胚性幹細胞だ。発生生物学以外でも、遺伝子組み換え作物やヒトゲノム解析など、生物学・生命科学に関する話題が、毎日のようにマスコミに登場する。

こうした状況の変化に対し、今回の大会ではどのような取り組みがなされるだろうか。社会における生物研究を考える立場としては、気になっていた。2日目の夕方に行われた幹細胞の倫理に関するセッションと、General Assemblyでのヒトのクローン個体産生のモラトリウム宣言に関する議論は、そうした期待に応えるものだった。まず、幹細胞のセッションでは、エジンバラのAustin Smithと毎日新聞の青野由利がイギリスと日本での状況を紹介した。特にSmithが、倫理の議論の前提として、サイエンスを理解することの重要性を強調したのが印象的だった。

一方、ヒトクローン個体産生のモラトリウム宣言については、ISDBのBoardにより検討された宣言案について、General Assemblyでパネル討論が行なわれ、参加者による採決を経て採択された。今年に入って、特定の医師グループや宗教団体がヒトのクローンを作る計画を表明し、大きく報道されている。そうした状況の中、専門家の集団である国際発生生物学会が、まずは科学的な見地から宣言を発表したことは意義深い。ただ、あえて批判的に見るなら、Boardの集まりではしっかりと議論されたかもしれないが、一般の参加者にとっては、ほとんど議論なしに、結果としての宣言案を提示されたただけだったように思う。私のように強い関心を持つ一般会員は少数だろうが、これほど社会的関心が高まっている現在、あらゆる会員が自分の問題として議論する時間がもう少し長く取ってあれば、さらに良かったのではないか。

ともあれ、全体としては、高いレベルのサイエンスに、社会的問題についての議論が加わった、すばらしいプログラムだった。2005年のオーストラリアでの大会に向けて、発生現象を理解する純粋なサイエンスとしても、社会の中のサイエンスとしても、より一層の発展がなされることを期待し、私自身は後者について微力ながら何かできればと思っている。(文中敬称略)

2001年度 日本発生生物学会運営委員会 議事録

日 時：2001年7月10日（火曜日） 12:00～13:30

場 所：京都国際会議場 会議室

出席者：竹市 雅俊(会長)

阿形 清和、井出 宏之(幹事長兼務)、黒岩 厚、小林 悟、近藤 寿人、
佐藤 矩行、高橋 淑子、武田 洋幸、野地 澄晴、藤澤 肇 (運営委員)
浅島 誠 (DGD編集主幹)
藤森 俊彦 (会計監査員)
出口 竜作、田村 宏治 (事務局)、

会長挨拶のあと引き続き、報告、審議に入った。

報告事項

1. 日本発生生物学会・ICDB合同大会準備委員会委員長挨拶（竹市ICDB準備委員長）
 - ・30カ国を越える多数の国から、1500名にも及ぶ参加者を迎えた。
(前回Snowbirdは1000名程度)
 - ・プログラムにかなり苦慮したが、外国人参加者の評判もよいようだ。
 - ・文部科学省から日本発生生物学会への“研究成果公開促進費”の補助金があるなど、多数の助成などをいただいた。
 - ・次回のISDBはオーストラリアで開催される可能性がある。

2. 事務局報告（井出幹事長）

会員数（2001年6月現在）

・国内	正会員	1051名
	学生会員	316名
	賛助会員	4名
・国外	正会員	46名
	会員総数	1417名

(前回(今年1月)に比べて、10名減。ほぼ横ばい)

3. DGD編集委員会からの報告（浅島DGD編集主幹）（詳細は、本号別ページを参照）

- ・投稿論文数は増加傾向にある。採択率は67%程度。外国からの投稿論文も増加(共

著者も含め、掲載論文の3から4割)。

- ・ Blackwell社との交渉によって、投稿者のカラー負担はなくなり無料となった。43巻3号から適応されている。

- ・ on line化について

整備が完了し、登録できる状態となった(本誌参照)。

1年間は内容をオープンにする予定である。

刊行物の取り扱いなどに関して、今後の検討課題としている。

4. 2002来年度の年会について(八杉準備委員長欠席のため、浅島準備副委員長から)

- ・ 大会は2002年(平成13年)5月21日(火)－5月23日(木)に、細胞生物学会と合同で、パシフィコ横浜で開催される。
- ・ 一般発表はすべてポスターとし、3日間とも午前中にポスター説明の時間を設ける。ポスターは一日中貼ることとする。
- ・ 3日間とも合同シンポジウムと各学会主催のシンポジウム、ワークショップを開催する。一部合同シンポジウムと重なる。学会ごとのシンポ・ワークショップは、発生6、細胞10とする。
- ・ 総会は各学会ごとに2日目午後とする。その後懇親会(国立大ホールマリノロビー)
- ・ 発生生物学会編集委員会、運営委員会は20日(月)午後に同会場にて。
- ・ 参加費等：期限前申し込みは、一般7000円、学生4000円。それ以外は一般8500円、学生5000円。要旨集は各3000円、両学会分で5000円。(会員には予め配布される。細胞生物学会のプログラムも掲載する)

5. 学術会議報告(星学術会議委員欠席のため、井出幹事長から)

- ・ 研連の統合について

☐ 統合はしない

本研連では植物科学研連との統合について検討しており、植物科学研連との合同会議においても、合同ワーキンググループを立ち上げ、研連合同のあるべき姿や問題点を検討することになっている。しかし、両研連ともに推薦研連であり、その合同は今回の統合には馴染まないと考えている。むしろ、複合研連や部を越えた研連の可能性をも視野にいた、生物科学関連研連全体の再編成という観点から検討していくことが望ましいと認識している。

・定員の供出について

☐ 定員を供出してもよい

2名、あるいは植物研連と併せて3名（植物科学研連との合同会議で了承済み）

空き研連をつくることに積極的に賛成する立場から供出するものである。

・空き研連が生じた場合、新しく作るべきだと御考えになる研連名（専門分野あるいはテーマ名）

1) 発生生物学研究連絡委員会

2) 光生物学研究連絡委員会

両研連とも、長らく新設が望まれていたものであるが、研連見直し論もあって設置の提案が見合わされていた。両研連新設の期待はますます増しているが、(1)で述べた生物科学関連研連全体の再編成という観点から（少なくともその方向を射程に入れて）検討すべきと考える。

3) 「理数教育」に関する研連。

教育問題はますます重要な課題となっているので、現在のWGを研連に発展させる必要がある。

6. 生物科学学会連合に関する報告(井出幹事長)

・生物科学学会連合WG委員として東中川徹会員(早稲田大学)を推薦した

7. その他

・次期事務局について（井出幹事長）

次期(2002年度から)事務局を、東北大学生命科学研究科の仲村春和先生がお引き受けくださったとの報告があった。

・ヒトクローニングについて(竹市会長)

ISDBとしてヒト個体クローニングに関してモラトリアムを唱える、との報告がり、日本発生生物学会としても今後議論していくことが提案された。

審議事項

1. 2000年度決算と2001年度予算について

- ・1998年度決算（別紙1）、および会計監査が報告され、承認された。
- ・1999年度予算案（別紙2）が承認された。

（注意）これまでの会計報告では、本来なら翌年の収入に組み込むべき費目（前受会

費など) も含まれた繰越額を記載していたが、今回からはそれらを除いた繰越額を記載することにした。

2. 2003年の年会について(竹市会長)

- ・ 2003年度大会は合同年会とせず、発生生物学会単独で行う。合同年会に関しては、来年の結果を熟慮し、今後、検討していく。
- ・ 2003年度大会の候補地として北海道(北海道大学)が挙げられ、了承された。

3. ホームページ委員会から(阿形HP委員長)

- ・ 委員の追認。舟橋淳一会員(東北大生命科学研究科)が推挙され、承認された。
- ・ ホームページhtml化の担当の交代、それに伴う手続きについて、了承された。
- ・ 来年度から、サーキュラーのWeb化が実現する場合には、ホームページの強化を進める。

4. サーキュラーのWeb化に向けて(事務局)

事務局からサーキュラーのWeb化に関する具体的な提案があり、了承された。会員にアンケート(本誌参照)をとることが提案された。

5. 総会議案が承認された。

(別紙1) 2000年度 決算

一般会計

{収入の部}	(単位:円)
	決 算 額
会 費 収 入	13,088,000
正会員	10,732,000
学生会員	1,904,000
海外正会員	332,000
賛助会員	120,000
文部科学省補助金収入	5,900,000
広告収入	400,000
雑 収 入	182,904
利息収入	2,849
*1999年度からの繰越	426,876
収 入 合 計	20,000,629

*繰越額

翌年度の会計に組み込まれるべき費目（前受会費等）を除いた“真の”繰越剰余額

{支出の部}	(単位:円)
	決 算 額
D G D 刊行費	8,238,941
印刷・発送費	6,338,757
編集費	1,881,284
保管料	18,900
サーキュラー刊行費	2,047,261
印刷費	1,231,791
発送費	815,470
大会関係費	1,697,379
大会補助金	0
印刷費	1,413,669
発送費	283,710
ホームページ関係費	449,240
維持費	325,500
旅費	123,740
会議費	0
運営委員会経費	492,740
旅費	492,740
会議費	0
総務費	1,120,307
通信費	312,673
印刷費	35,060
旅費	163,704
人件費	378,000
雑費	230,870
業務委託費	2,199,424
名簿作成費	1,889,115
選挙関係費	678,872
*2001年度への繰越	1,187,350
支 出 合 計	20,000,629

特別会計

金額 (円)	備 考
15,000,000	1999年度からの繰越

(別紙 2) 2001年度 予算

一般会計

{収入の部}	(単位: 円)
	予 算 額
会 費 収 入	12,220,000
正会員	10,000,000
学生会員	1,800,000
海外正会員	300,000
賛助会員	120,000
文部科学省補助金収入	4,800,000
広告収入	300,000
雑 収 入	150,000
利息収入	2,500
*2000年度からの繰越	1,187,350
収 入 合 計	18,659,850

{支出の部}	(単位: 円)
	予 算 額
D G D 刊行費	9,020,000
印刷・発送費	6,500,000
編集費	2,500,000
保管料	20,000
サーキュラー刊行費	2,200,000
印刷費	1,300,000
発送費	900,000
大会関係費	500,000
大会補助金	500,000
印刷費	0
発送費	0
ホームページ関係費	620,000
維持費	400,000
旅費	200,000
会議費	20,000
運営委員会経費	580,000
旅費	500,000
会議費	80,000
総務費	1,450,000
通信費	350,000
印刷費	50,000
旅費	150,000
人件費	650,000
雑費	250,000
業務委託費	2,200,000
予備費	2,089,850
支 出 合 計	18,659,850

特別会計

金額 (円)	備 考
15,000,000	2000年度からの繰越
-2,500,000	DGD supplementへの支出
12,500,000	合計

第34回 日本発生生物学会総会議事録

日時：2001年7月11日

場所：京都国際会館

議長選出（井出幹事長）：

会場から佐藤矩行会員が推薦され、満場一致で同会員を議長に選出した。

報告事項

1. 会長および大会委員長挨拶（竹市会長）

- ・総演題数はまだ不確定だが、1400を越える。30カ国以上の国々から集まってくれた。全体会よりも大幅な増員だった。
- ・文部科学省を始め多数の助成と多くの方々の協力により、財政も大丈夫だった。
- ・活発な議論が繰り返され、盛況。外国人からの評判も上々でありがたい。

2. 庶務報告（事務局）

会員数（2001年6月現在）

・国内	正会員	1051名
	学生会員	316名
	賛助会員	4名
・国外	正会員	46名
	会員総数	1417名

昨年の同時期より少なくなっているのは、会費未納（6年間以上）の会員を除名処分にしたためである。

3. DGD編集会議からの報告（浅島編集主幹欠席のため、井出幹事長から）

- ・DGDのカラー写真(図)の無料化を実現した。
- ・DGDのon line化に向けて引き続き検討中。会員の閲覧が可能となった。
- ・DGDのimpact factorは確実に上がっているので、是非、皆さんに良い論文を投稿してもらいたい。

4. 第35回日本発生生物学会大会について（八杉大会準備委員長欠席のため、井出幹事長から）

- ・ 大会は2002年（平成13年）5月21日（火）－5月23日（木）に、細胞生物学会と合同で、パシフィコ横浜で開催される。
- ・ 一般発表はすべてポスターとし、3日間とも午前中にポスター説明の時間を設ける。ポスターは一日中貼ることとする。
- ・ 3日間とも合同シンポジウムと各学会主催のシンポジウム、ワークショップを開催する。一部合同シンポジウムと重なる。学会ごとのシンポ・ワークショップは、発生6，細胞10とする。

5. ホームページ委員会報告（阿形HP委員）

・ 委員の追認

新しい委員として、舟橋淳一会員（東北大学生命科学研究科）が運営委員会で承認された。

・ ホームページリンクの規定について

ホームページのリンクの承認は1件ごとにホームページ委員会で議論の上、決定する。その場合において、基本的には、商業目的でないこと、学術的に有意義であることを基準とする。この基準を満たすものに関しては、ホームページ委員が積極的にリンクサイトを取り上げる可能性がある。本項目はホームページ委員会細則として明文化する必要がある。

・ ホームページへの投稿、特に求人に関して

基本的にホームページ委員が1件ごとに決定する。求人に関しては、有給のポストと教官公募とし、学生募集に関しては掲載しない。ただし、投稿は事務局になされることになるので掲載内容に関しては基本的には事務局庶務幹事（兼HP委員）の判断にゆだねる。本項目はホームページ委員会細則として明文化する必要がある。投稿は、庶務幹事（兼HP委員）に直接メールで行うこととする。これをホームページのトップページに明記する。これにあわせ、HPのトップページを改定する（項目の変更も）。

6. その他

- ・ 2003年度大会の候補地について（竹市会長）

北海道が候補地としてあがっている。北海道大学に打診済みで了解を得ており、さっそく正式な依頼を行うことにしている。

・次期事務局について(井出幹事長)

仲村春和会員(東北大学生命科学研究科)から快諾を得、運営委員会で承認された。年内に引継ぎを完了し、2002年1月から移転する。

・ヒトクローニングについて(竹市会長)

ISDBでは、ヒト個体クローニングに関してはモラトリアムを唱える。ISDBは各国の発生生物学会の集合であるので、今後、日本発生生物学会としてどのように対応していくか協議していく必要があるかもしれない。

- * これに対して会場から、協議の場合は会員への連絡を行いみなでも協議することを希望する、との意見が出された。

審議事項

1. 2000年度決算(事務局、藤森会計監査委員)

2000年度決算(別紙1)、会計監査が報告され、承認された。

2. 2001年度予算(事務局)

2001年度予算案(別紙2)が承認された。

3. その他

・ホームページのWeb化について(事務局、田村庶務幹事)

このことについて、事務局から詳しい説明とともに具体的な提案がなされた。詳細は、本誌別項(サーキュラーのWeb化について)を参照。

- * これに対して会場から、会員にとっても大きなことなので直接アンケートを取るべきではないか、印刷物に愛着はある、サーキュラーは発生学会の歴史でもあるので印刷を休止してもその内容は事務局で保存していくべきである、などの意見が出された。あるいは、大量にe-mailを扱う上での注意なども指摘された。

- * これに対し事務局は、まずはサーキュラー(本号)で会員にアンケートを取り、そこから出てきた意見と会場からの意見をかながみて進めていくこととし、了承された。

DGD編集からのお知らせとお願い

DGD編集主幹 浅 島 誠

日本発生生物学会が発行している国際誌Development Growth and Differentiationからいくつかの報告とお願いを申し上げます。

1. カラー写真等の掲載無料化

まずDGDに今後(2001年8月号から)論文を投稿し、掲載を希望する場合、カラー写真や図については著者の負担はすべて無料となります。それゆえ、カラー写真や図をつかった論文は大歓迎いたしますのでどしどし投稿して下さい。

2. インパクト ファクター大幅上昇

DGDのインパクト ファクターはここ10年くらい1.1~1.4ぐらいでしたが、2000年度は一挙に1.743まで上昇しました。歴代の編集主幹が御勢力下さったことと、皆様方が良い論文を沢山投稿して下さいお陰ですが、これからも良い論文を沢山投稿してください。特に若い人が御自分のお仕事がまとまってきましたらreview articleを書いてみて下さい。また、review article が書けそうな人(国内外を問わず)を Editor in Chief に是非連絡して下さいますようお願いします。

3. 査読をして下さっている先生方へ

DGDが質が良くなってきている大きな要因の一つは査読または、review をして下さい先生方の御協力が非常に大きいものと思っています。ほとんどの先生方の review は非常に適切なcomments を下さっています。これは、Editor in Chief として心から深く感謝しています。多くの review をして下さい先生方は御多忙のこととは思いますが、今後ともよろしく御協力の程、お願いします。

4. 良い論文をDGDに

DGDは上記のように impact factor も急上昇していますし、Medlineをはじめinternet等を通して国内外に広く読まれています。是非、皆さんの優れた質の高い論文をDGDに投稿して下さいようお願いします。

Development Growth & Differentiationのオンライン閲覧開始

日本発生物学会はBlackwell Science Asiaの協力により、会員にはDevelopment Growth & Differentiationの全論文をBlackwell Synergy上でご覧いただけるようオンライン化しました。現在1999/2000/2001年発行の論文がオンライン上でご利用可能ですので、是非お試しください。

重要)

- ◆Step1およびStep2の登録手続き完了後のご利用は、Step3の登録確認のためのUsername/Password入力のみが必要となりますので、Step1およびStep2の作業は不要です。
- ◆Synergyご登録後もDevelopment Growth & Differentiationの印刷紙面版は従来通りお手元に届きます。

Step1: Synergyサービスへの新規登録

- ▶ オンライン閲覧にあたり、まず、個人登録が必要です。

www.blackwell-synergy.com

のアドレスを入力し、Registrationの画面が出ますので、メッセージにしたがい個人登録を完了してください。ここで登録するUsername/Passwordは会員個人でご自由に設定いただいて結構です。しかし、以降のご利用時には常に必要となりますので、入力されたUsername/Passwordは控えをとって覚えておいてください。

- ▶ 2ページの登録必要事項入力ページの後、3ページ目は”Registration Confirmed”のページです。右上パネルの”Your Homepage”をクリックしてください。
- ▶ Login画面が出ますので、そこで最初に登録したUsername/Passwordを入力しLoginをクリックされますと、それぞれの会員のHomepageが開きます。

Step2: 会員特別登録

- ▶ ここからは会員だけの特別登録です。この登録は一度だけ手続きをしてください。
- ▶ “Your Homepage”のページに出ている“Access Tab”をクリックしてください。

- ▶ 下段の “Your Synergy Offer Code” にJSDBと入力し、“Continue” をクリックしてください。
- ▶ “Surname” に全て英大文字で会員の姓を入力してください。(例：MIYAMURA)
- ▶ “Member ID” に会員番号を入力してください。(例：81xxxxxxx)
- ▶ “Continue” をクリックしてください。
- ▶ Development Growth & Differentiationをクリックして閲覧ください。

Step3: 登録時以降のご利用

- ▶ www.blackwell-synergy.comをアドレス入力し直接SynergyのHomepageを開いてください。
- ▶ Step1の個人登録で登録したUsername/Passwordを入力してください。
- ▶ “Login” をクリックしてください。
- ▶ “Your Homepage” の画面になります。
- ▶ Development Growth & Differentiationをクリックして閲覧ください。

ご質問・お問い合わせは下記担当者宛にご連絡ください。

田 中 久仁美

Blackwell Asia

〒113-0033 東京都文京区本郷2-38-14 TKビル5F

TEL:03-5802-6781

FAX:03-5802-6782

emal : ktbsj@gol.com

サーキュラーのWeb化について

日本発生生物学会事務局：庶務幹事 田 村 宏 治

日本発生生物学会事務局では、日本発生生物学会刊行誌“サーキュラー”のWeb化を提案させていただいております。その理由は主に以下の点です。

1) 情報伝達のスピードアップ

多元化する情報を会員へ伝達する際の速報性の問題です。学会事務局には会員に有益と考えられるさまざまな情報が頻繁に寄せられてきます。中には期限が差し迫っているものも少なからずあり、これらに対応するためには年3回発刊されているサーキュラーでは無理なことが多く、ほとんどの情報はまず日本発生生物学会ホームページでお知らせしております。つまりサーキュラーの内容の大部分は、ホームページに掲載されているものと重複しているのが実際です。

2) 事務局の労力軽減

サーキュラー発行にかかる事務局の労力も少なくありません。現在、サーキュラー原稿の依頼・収集・管理から、編集、脱稿、校正にいたるまで全て事務局が行っている上、ホームページ掲載原稿の管理も行っております。私どもの事務局は今年度を持ちまして終了し事務局は移転する予定ですが、1400名以上の会員を抱える日本発生生物学会を、ほぼボランティアとして支えてくれる将来の事務局の方々のためにも、できる限り労務を軽減していきたいと考えます。さらに、将来を考えて少しでも経費削減を行うという意図もあります。

サーキュラーは、次号2001年12月号をもちまして100号となります。1969年発刊以来、30年以上にわたって配布されてきた歴史ある刊行物を印刷しなくなることに對しては、事務局といたしましても戸惑いはあります。しかし、新世紀を迎え変化し続ける動向に對応すべく、あえて提案をさせていただくことにしました。7月に行われました運営委員会と総会におきましておおよその流れに関しては了承を得られましたので、あらためて会員の皆様のご意見を伺いたくアンケートを実施することにいたしました。

つきましては、以下の内容をお読みいただき、同封のアンケート用紙に記入の上、10月末日までに学会事務局(東北大学内、サーキュラー裏表紙参照)まで、郵送またはFAXでご返送いただきますよう、なにとぞよろしくお願いいたします。なお、返信をいただけなかった会員につきましては御同意いただいたものと判断させていただきます。

提案内容

- 1、サーキュラーの刊行は本年度(2001年12月号、第100号)をもって、休止とする。
- 2、来年度以降は、会員への連絡はすべて日本発生生物学会ホームページに掲載する。
- 3、ホームページの更新は原則として1ヶ月に1度とし、その都度、更新内容をe-mailで会員に連絡し、会員が常に新しい情報を活用できるようにする。e-mailで連絡を受けられない会員については、あらかじめその旨を連絡してもらい、FAXにて更新内容を連絡する。
- 4、インターネットへのアクセス手段がないなどの理由で、印刷物を希望する会員については、あらかじめその旨を連絡してもらい、1年に3回、更新内容を印刷して郵送にて配布する。

事務局から会員の皆さまへのお願い

サーキュラーの Web への移行に際して大きな問題となってくるのは、会員のe-mailアドレスの管理です。e-mailが正確に会員の手元に届かない状態では、Web化はうまく機能いたしません。昨年から繰り返しお願いをしてまいりましたが、正確なe-mailアドレスを発生生物学会までお送りくださいますようお願いいたします。多くの会員の方々にはご協力をいただいております。平成13年8月現在、会員数1417名のうちe-mailアドレスが登録されている会員は1187名、そのうち前回8月にメールを送信した際に届かなかったものは55件です。サーキュラーがWeb化された場合、それを積極的に会員に活用していただくためには、正確なe-mailアドレスを登録していただく必要があります。プライバシー保守を強化するため、次回の会員名簿作成時(平成14年度)には、会員名簿へのe-mailアドレスの掲載を希望するかしないかを選択していただくなどの努力もしてまいります。会員の皆様のご協力を、なにとぞよろしくお願いいたします。

第16回塚原仲晃記念賞受賞候補者推薦要領

(平成13年度 寄付行為第4条第2号、褒賞事業)

財団法人 ブレインサイエンス振興財団

1. 趣旨

生命科学の分野において優れた独創的研究を行っている45歳以下の研究者（国内外を問わない）に対して塚原仲晃記念賞を贈呈する

2. 褒賞金

贈呈件数は原則として1件とし、賞牌ならびに副賞（100万円）を贈呈する。

3. 推薦締切日

平成13年10月26日（金）とする。（財団締め切りのひと月前、学会事務局必着。）

4. 推薦者

（1） 関係各学会代表責任者または所属機関の長とする。

（2） 当財団の理事および評議員とする。

（当財団の理事および評議員よりの推薦については、1推薦者から1件に限る。）

5. 推薦方法

所定の用紙に必要事項を記入し、当財団に提出する。（用紙が必要な場合は、80円切手1枚を同封の上、塚原仲晃記念賞推薦要領希望を明記し、封書で財団宛送付次第、おりかえし推薦要領を送付する。返信用封筒は不要。）

6. 選考の方法

選考委員会において選考し、理事会において決定する。

7. 選考結果の通知

平成14年3月末日までに推薦者および受賞あて通知する。

8. 塚原仲晃記念賞の贈呈 その他

贈呈決定者に対して、別途通知する。

推薦書提出先および連絡先

財団法人 ブレインサイエンス振興財団

〒104-0028 東京都中央区八重洲2丁目6番20号

電話（03）3273-2565（直通）

第16回研究助成候補者推薦要領

(平成13年度 寄付行為第4条第1号、研究助成事業)

財団法人 ブレインサイエンス振興財団

1. 趣旨

ブレインサイエンス研究分野において、独創的で国際的評価に値する研究を助成する。研究分野は、脳神経に関する実験研究のみならず理論・モデリング研究をも含む。候補者は、単独であっても、また共同研究であってもよい。

2. 研究助成金

助成額は1件80万円、助成件数は8件とする。

3. 推薦締切日

平成13年11月26日(月)とする。

4. 応募用紙

80円切手一枚を同封の上、研究助成応募要領希望を明記し、封書で財団宛送付次第、おろかし推薦要領を送付する。返信用封筒は不要。

5. 推薦件数

当財団の理事および評議員よりの推薦については、1推薦者から1件に限る。

6. 応募方法

所定の用紙に必要事項を記入し、直接当財団に提出する。(研究についての問い合わせ可能な所属長名を明記すること。)

7. 選考の方法

選考委員会において選考し、理事会において決定する。

8. 採否の通知

平成14年3月末日までに応募者あて、採否を通知する。

9. 助成金の交付

助成決定者に対しては、平成14年6月末日までに助成決定者の指定口座に振り込む。

10. 助成金の使途

助成金は、推薦書記載の通り使用することを原則とする。なお、経理報告書を平成15年4月末日に提出すること。

11. 成果の報告

研究の成果については、平成15年4月末日までに成果報告を当財団に提出するも

のとする。助成金による研究を専門誌に発表する場合には、“財団法人ブレインサイエンス振興財団（英文の場合は、Brain Science Foundation）の助成による”旨を書き添えること。

応募用紙提出先および連絡先

財団法人 ブレインサイエンス振興財団

〒104-0028 東京都中央区八重洲2丁目6番20号

電話（03）3273-2565（直通）

第15回海外研究者招聘助成候補者推薦要領

（平成13年度 寄付行為第4条第3号、国際交流事業）

財団法人 ブレインサイエンス振興財団

1. 趣旨

ブレインサイエンス研究分野において、独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の短期間（3ヶ月以内）の招聘を助成する。

ただし、平成14年4月1日から平成15年3月31日の間に外国の研究者を招聘する。また、助成金は、外国人研究者を招聘する受入責任者に交付する。

2. 助成予定額

1件あたりの助成額は、往復の航空運賃を主とし、30万円までを限度として必要額を若干件助成する。

3. 推薦者

（1）関係各学会代表責任者または受入責任者の所属機関の長とする。

（2）当財団の理事および評議員とする。

（当財団の理事および評議員からの推薦は、1推薦者から1件に限る）

4. 推薦方法

学会推薦を受ける場合は、所定の用紙に必要事項を記入し、学会事務局に提出する。

（用紙が必要な場合は、80円切手一枚を同封の上、研究助成応募要領希望を明記し、封書で財団宛送付次第、おりかえし推薦要領を送付する。返信用封筒は不要。）

5. 推薦締切日

平成13年12月17日（月）とする。（財団締め切りのひと月前、学会事務局必着）。

6. 審査方法

選考委員会において選考し、理事会において決定する。

7. 採否の通知

平成14年3月末日までに受入れ責任者および推薦者あて採否を通知する。

8. 助成金の交付

助成決定者に対しては、平成14年4月から必要に応じて受入責任者あて指定口座に振り込む。

9. 助成金の使途

外国人研究者招聘助成金は、応募用紙記載のとおり使用することを原則とする。

10. 成果の報告

招聘の成果について、招聘後2ヶ月以内に受入責任者より報告書を当財団に提出すること。

推薦書提出先および連絡先

財団法人 ブレインサイエンス振興財団

〒104-0028 東京都中央区八重洲2丁目6番20号

電話（03）3273-2565（直通）

第15回海外派遣研究助成候補者推薦要領

（平成13年度 寄付行為第4条第3号、国際交流事業）

財団法人 ブレインサイエンス振興財団

1. 趣旨

我が国におけるブレインサイエンスの研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは短期間（6ヶ月以内）の共同研究のための研究者の海外派遣を助成する。

ただし、平成14年4月から平成15年3月までの間に出発出来るものに限る。

2. 助成予定額

1件あたりの助成額は、往復の航空運賃を主とし、30万円までを限度として必要額を若干件助成する。

3. 応募締切日

平成14年1月16日（水）とする。

4. 応募用紙

80円切手一枚を同封の上、派遣研究助成応募要領希望を明記し、封書で財団宛送付次第、おりかえし推薦要領を送付する。返信用封筒は不要。

5. 応募方法

所定の用紙に必要事項を記入し、財団に直接提出する。

○学会、シンポジウム等の問い合わせ可能な所属長の名前を明記すること。

○受入先の承諾書を添付すること。

（学会、シンポジウム等参加の場合は参加証明書または招待状の写し。短期の共同研究の場合は受入機関または共同研究者の手紙の写し。）

6. 審査方法

選考委員会において選考し、理事会において決定する。

7. 採否の通知

平成14年3月末日までに応募者あて採否を通知する。

8. 助成金の交付

助成決定者に対しては、平成14年4月以降に出発時期に応じて指定口座に振り込む。

9. 助成金の使途

助成金は、応募用紙記載のとおり使用することを原則とする。

10. 成果の報告

帰国後2ヶ月以内に派遣の成果について、報告書を当財団に提出すること。

推薦書提出先および連絡先

財団法人 ブレインサイエンス振興財団

〒104-0028 東京都中央区八重洲2丁目6番20号

電話（03）3273-2565（直通）

2002年度「女性科学者に明るい未来をの会・猿橋賞」の 受賞候補者及び研究奨励賞候補者の推薦依頼について

「女性科学者に明るい未来をの会」（1980年創立）は、自然科学の分野で、顕著な研究業績を収めた女性科学者に、毎年、賞（猿橋賞）を贈呈してまいりました。

1990年度からは、さらに、海外のシンポジウム等に出席し、論文発表をする若手の女性研究者に対し、研究助成することにいたしました。

賞金と助成金は、本会を母体として新設された、公益信託（1990年3月31日文部省認可）「女性自然科学者研究支援基金」（受託者 東洋信託銀行株式会社）から支出されます。

つきましては、下記の要領により受賞候補者と奨励賞候補者を募集いたします。

記

猿 橋 賞

- 1 本賞は自然科学の分野で、顕著な成績を収めた女性科学者（ただし、下記の推薦締め切日で50才未満）に贈呈します。
- 2 本賞は賞状とし、副賞として賞金「30万円」をそえます。
- 3 本賞の贈呈は1年1件（1名）です。
- 4 所定の用紙に受賞候補者の推薦対象となる研究題目、推薦理由（400字程度）、略歴、主な業績リスト、主な論文別刷り10編程度、及び推薦者氏名・肩書きを、学会事務局までお送り下さい。
- 5 締め切りは2001年10月30日（財団締め切りのひと月前、学会事務局必着）。
- 6 第22回の賞贈呈式は、2002年5月、東京において行う予定です。

なお、最近4年間の猿橋賞受賞者は次のとおりです。

猿橋賞受賞者

第18回（1998） 千葉大学大学院自然科学研究科 教授 西川 恵子博士
「超臨界流体の研究」

第19回（1999） 東京医科大学助教授 持田 澄子博士
「神経伝達物質の放出機構の研究」

- 第20回(2000) 東京大学大学院農学 生命科学研究科助教授 中西 友子博士
「植物における水及び微量元素の挙動」
- 第21回(2001) 東京大学大学院理学系研究科助教授 永原 裕子博士
「隕石や惑星物質の形成と進化」

研 究 奨 励 賞

- 1 海外のシンポジウム等に出席し、論文を発表する女性研究者に対し、研究助成をいたします。
- 2 助成金は1件10万円とし、年に数件とします。
- 3 所定の用紙に推薦対象者(各締切日において 満40才未満)の略歴、研究業績、国際会議名(主催団体、開催場所、年月日)、発表論文題目、推薦理由等、及び推薦者氏名・肩書きを記入して、学会事務局までお送り下さい。
- 4 締め切りは2001年10月末日と、2002年3月末日の2回(財団締め切りのひと月前、学会事務局必着)。

連絡先 女性科学者に明るい未来をの会
〒166-0002 東京都杉並区高円寺北4-29-2-217
電話03-3330-2455 (FAX兼用)

公益信託成茂動物学科振興基金平成13年度助成 結果報告

サーキュラーとホームページにて募集広告(直接応募)を掲載いたしました、成茂動物学科振興基金より、以下のとおり結果報告が参りました。

公益信託 成茂動物学科振興基金運営委員会 運営委員長 平 本 幸 男

拝啓 時下益々ご隆昌のこととお慶び申し上げます。

早速ですが、先に募集広告を掲載していただきました公益信託成茂動物学科振興基金平成13年度助成者は、先日開催されました運営委員会において慎重なる審議の結果、下記研究者に決定されました。

つきましては、結果報告を貴誌にご掲載下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

助成者氏名	所属機関	助成金額
1. 飯田 弘	九州大学	30万円
2. 井筒 ゆみ	新潟大学	40〃
3. 猪原 節之介	島根大学	30〃
4. 向後 寛	名古屋大学	30〃
5. 後藤 太一郎	三重大学	30〃
6. 谷 知己	東京都臨床医学 総合研究所	30〃
7. 田村 宏治	東北大学	30〃
8. 古川 清	東京都老人総合研究所	30〃
9. 宮崎 淳一	筑波大学	40〃
10. 和田 洋	京都大学	30〃
11. 渡部 稔	東京慈恵会医科大学	30〃
合計	11名	350万円

以上

<公益信託 成茂動物科学振興基金事務局>

〒100-8212 東京都千代田区永田町2-11-1

三菱信託銀行個人資産相談部

公益信託推進室 担当 小林

TEL03(3212)1211 内線3172

三菱化学生命科学研究so創立30周年記念シンポジウム 「21世紀の生命科学を創る」

日時：2001年11月22日（木）9：15（開場）～18：00

会場：東京・大手町 経団連会館14階 経団連ホール

入場無料 ・ 一般来聴歓迎

【プログラム】

[午前の部] (9：45～11：30)

1. 挨拶 三菱化学株式会社取締役社長・正野 寛治

2. 所長講演

「21世紀の生命科学と三菱化学生命科学研究so」 永井 克孝

3. 招待 OB 講演

「ヒトゲノム ～解説から応用・人間理解へ～」

榊 佳之 先生

(東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター 教授／

理化学研究所ゲノム科学総合研究センター プロジェクトディレクター)

[午後の部 part I] (13：00～15：30)

4. 研究員講演

「生殖細胞 - 輪廻の担い手 -」 野瀬 俊明

「脳を理解する～分子の窓から覗いた記憶～」 井ノ口 馨

「人工冬眠への挑戦 - 冬眠で長寿を実現！？ -」 近藤 宣昭

[午後の部 part II] (15：45～18：00)

5. パネル討論会

「生命科学の世紀と生命観・価値・民主主義」

梅原 猛 先生 (国際日本文化研究センター顧問)

金森 修 先生 (東京大学教育学部助教授)

中村 桂子 先生 (JT生命誌研究館副館長)

コーディネーター・米本 昌平

【申込方法】 氏名、連絡先住所、所属、電話番号を明記の上、葉書、FAXまたは E-mail にて下記までお申込み下さい。先着順で参加証をお送りします。当日、受付にて参加証をご提示下さい。

【申込期限】 10月31日

【問い合わせ・申込先】

〒194-8511 東京都町田市南大谷11号

三菱化学生命科学研究所・記念シンポジウム実行委員会

TEL 042-724-6248 FAX 042-724-6312

E-mail lsnews@libra.ls.m-kagaku.co.jp

URL <http://www.mitils.co.jp>

●国際高等研究所 岡田副所長公開講演会

日 時： 2001年10月27日（土） 午後2時～4時（1時30分開場）

講 師： 岡田 益吉（おかだ ますきち）国際高等研究所 副所長

テーマ： 「親と子の渡し船－生殖細胞物語り－」

会 場： 国際高等研究所 レクチャーホール

対 象： 一般の方 120名

入場料： 無料

申込方法： はがき・電話・電子メール・FAXのいずれかの方法で氏名、住所、電話番号、FAX番号、参加希望人数を下記宛にお送りください。（複数申込可）

★お申し込みのうえ直接ご来場ください。

入場整理券はお送りいたしません。定員超過後はお断りの旨連絡いたします。

申込・問合せ先：

国際高等研究所「岡田講演会」係

〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9-3

電 話：0774-73-4001（日・月・祝休）

講師略歴：

岡田益吉（おかだ・ますきち）

財団法人国際高等研究所 副所長、筑波大学名誉教授（理学博士）

専門分野：発生生物学 1932年生まれ

1960年東京教育大学大学院理学研究科博士課程修了。1974年東京教育大学理学部助教授を経て、1982年より筑波大学生物科学系教授。1995年同学退官後、同学名誉教授。

2001年4月より国際高等研究所副所長。

1988年日本動物学会賞、1994年日本遺伝学会木原賞を受賞

著書に「昆虫の発生生物学」（東京大学出版会 1988年）、「発生遺伝学」（編著 裳華房 1996年）、「宇宙環境利用のサイエンス」（共著 裳華房 2000年）、「死はなぜ進化したか」（訳書 三田出版会 1997年）、「遺伝子医療の時代」（訳書 共立出版 1999年）など

国際高等研究所HP

http://www.ias.or.jp/top/home_j.html

講演会申込ページ

<http://www.ias.or.jp/event/lec20011027.html>

●掲載有効期限：講演日まで

●この講演会の担当者：菟原（うはら） tel: 0774-73-4002

第18回加藤記念シンポジウム

テーマ：「再生医学」 —その現状そしてその先に見えるもの—

主催：（財）加藤記念バイオサイエンス研究振興財団

後援：文部科学省 厚生労働省

日本外科学会 日本細胞生物学会

日 時：平成13年10月13日（土）、13時～18時

会 場：経団連会館ホール（東京都千代田区大手町 1-9-4）

オーガナイザー：井村裕夫（総合科学技術会議議員）

西川伸一（京都大学大学院医学研究科教授）

－プログラム－

挨拶：中村寛之助（財団理事長）

講演：

①井村裕夫（総合科学技術会議議員）

「再生医学の目指すべきもの」

②西川伸一（京都大学大学院医学研究科教授）

「再生医学の二つの可能性」

③江口吾朗（熊本大学長）

「再生研究と再生医学」

④中内啓光（筑波大学基礎医学系教授）

「実質臓器の幹細胞生物学」

⑤内田伸子（Director of Neural Stem Cell Research, Inc.）

「ヒト神経幹細胞の可能性」

⑥松崎有未（Research Fellow, Children's Hospital, Boston, MA）

「Side Population」（注目の幹細胞）

⑦総合討論 司会：井村裕夫、西川伸一

参加方法：参加料無料。はがき又はFAXにて住所・氏名・所属・電話番号を明記のうえ、下記へお申し込みください。参加証をお送りいたします。但し、定員（420名）になり次第締め切ります。

申込締切：10月1日（月）

申込先：（財）加藤記念バイオサイエンス研究振興財団

〒194-8533 町田市旭町 3-6-6

TEL 042-725-2576

FAX 042-722-8614

会 員 異 動

<新入会員>

(氏名)	(所属)	(住所)	(①テーマ、②材料)
鈴木 忠	慶應義塾大学生物学教室	〒223-8521 横浜市港北区日吉4-1-1	①配偶子形成、初期発生 ②フタブシコオロギ、オニクマムシ
佐藤 勝重	東京医科歯科大学大学院機能協同システム医学	〒113-8519 文京区湯島1-5-45	①充学計測を用いた中枢神経系の機能発生／構築に関する研究 ②chick embryo、rat embryo
鬼頭 靖司	文部科学省放射線医学総合研究所	〒263-8555 千葉市稲毛区穴川4-9-1	①哺乳類卵子の初期発生 ②マウス、ラット
(学)今井智章	大阪大学微生物病研究所動物実験学部門	〒565-0871 吹田市山田丘3-1	①生殖幹細胞、転写因子 ②セルトリ細胞
中島 勝弥	(株)トミー精工	〒179-0073 練馬区田柄3-14-17	①細胞の分化 ②
(学)浜田麻友子	お茶の水女子大学人間文化研究科	〒294-0301 館山市香11 お茶の水女子大学臨海実験所	①小割球系細胞の中内胚葉分化に対する役割 ②ウニ
若山 友彦	金沢大学大学院医学系研究科組織発達構築学分野	〒920-8640 金沢市宝町13-1	①生殖生物学・始原生殖細胞の発生 ②マウス
千葉 親文	筑波大学生物科学系	〒305-8572 つくば市天王台1-1-1	①網膜再生の分子メカニズムと神経回路網形成のメカニズム ②アカハライモリ
(学)野口博光	熊本大学発生医学研究センター臓器形成分野	〒862-0976 熊本市九品寺4-24-1	①頭部顔面形態形成 ②マウス
(学)望月恭彰	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	①脊索動物の進化 ②Molgala tectiformis、Ciona intestinalis
(学)豊田礼子	東北大学大学院理学研究科生物学専攻発生生物山本研	〒980-8578 仙台市青葉区荒巻青葉	①色素細胞の発生 ②ホヤ
(学)中村和昭	埼玉大学大学院理工学研究科	〒338-8570 さいたま市下大久保255	①下垂体発生に関わる分子機構の解明 ②ニワトリ
須藤 文和	名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻神経発生生物学	〒464-8602 名古屋市千種区不老町	①神経回路形成のメカニズム ②マウス
酒井 大輔	東北大学大学院医学系研究科器官構築学分野	〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1	① ②鳥類胚

(氏名)	(所属)	(住所)	(①テーマ、②材料)
佐藤 俊	大阪府立母子保健総合医療センター研究所病因病態部門	〒594-1101 和泉市室堂町840	①マウス始原生殖細胞発生過程におけるゲノム刷り込み遺伝子 Igf2rの脱メチル化 ②マウスの始原生殖細胞
湯浅 保仁	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子腫瘍医学	〒113-8519 文京区湯島1-5-45	①消化器の発生・分化 ②ヒト、哺乳類
長尾 哲二	(財)食品薬品安全センター 秦野研究所生殖生物学研究室	〒257-8523 秦野市落合729-5	①異常発生 ②ラット、マウス
藤井 恒子	東北大学医学部器官構築学分野	〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1	①神経分化における非対称分裂
(学)岡岡雅浩	京都大学大学院理学研究科植物学教室	〒606-8502 京都市左京区北白川追分町	①植物分子発生学 ②シロイヌナズナ
(学)勝本恵一	鹿児島大学大学院理工学研究科	〒890-0065 鹿児島市郡元1-21-35	①オーガナイザー形成機構 ②アフリカツメガエル
(学)高橋 薫	東京医科歯科大学老化制御医学系加齢制御医学講座分子免疫病理学	〒113-8510 文京区湯島1-5-45	①神経発生
佐藤 滋	自治医科大学医学部生物化学教室	〒329-0498 栃木県河内郡南河内町大字薬師寺3311-1	①発生プログラムの進化 ②マウス、ゼノパス、マボヤ
(学)好本あき	大阪大学細胞生体工学センター	〒565-0871 吹田市山田丘1-3	①トランスジェニックマウスを用いたレンズ発生 ②マウス
升井 伸治	理化学研究所発生・再生科学総合研究センター多能性幹細胞研究チーム	〒663-8241 西宮市津門大塚町6-27-202	①ES細胞の未分化状態維持機構 ②マウス

<会員資格変更>

海外→国内

田原 浩昭	徳島大学ゲノム機能研究センター分子機能解析分野	〒770-8503	徳島市蔵本町3-18-15
影山 裕二	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科分子発生生物学	〒630-0101	生駒市高山町8916-5
東郷 建	東京大学大学院理学系研究科附属三崎臨海実験所	〒238-0225	三浦市三崎町小網代1024
井関 祥子	東京医科歯科大学大学院分子発生学分野	〒113-8549	文京区湯島1-5-45
中川 真一	京都大学生命科学研究科多細胞構築学講座	〒606-8502	京都市左京区北白川追分町

国内→海外

- 饗庭 一博 Lab. of Genetics, NIH/NIA-IRP 333 Cassell Dr., Suite 4000, Baltimore, MD 21224-6820, U.S.A.
- 望月 一史 Dept. of Biology, Univ. of Rochester RC Box 270211, Rochester, NY 14627, U.S.A.
- 石村 昭彦 Developmental Signal Transduction Group, Regulation of Cell Growth Lab.
Bldg. 560, Rm.22-3, NCI-FCRDC, Frederick, MD 21702, U.S.A.
- 長曾 秀幸 Dept. of Biochemistry and Molecular Biology, Mount Sinai Sch. of Med.
One Gustave L. Levy Place, Box 1020, New York, NY 10029, U.S.A.
- 高橋 宗春 c/o Peter W H Holland, Division of Zoology, Sch. of Animal and Microbial Scis.
The Univ. of Reading, P.O.Box 228, Whiteknights, Reading RG6 6AJ, U.K.

学生→正会員

- 望月 俊昭 (勸)癌研究会癌研究所生化学部 〒170-8455 豊島区上池袋1-37-1
- 石村 昭彦 Developmental Signal Transduction Group, Regulation of Cell Growth Lab.
Bldg. 560, Rm.22-3, NCI-FCRDC, Frederick, MD 21702, U.S.A.
- 石橋 祥子 奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科 〒630-0101 生駒市高山町8916-5
- 檜川 真樹 岡山大学理学部生物学科再生発生研究室 〒700-8530 岡山市津島中3-1-1
- 加藤健太郎 姫路工業大学理学研究科 〒678-1297 兵庫県赤穂郡上郡町光都3-2-1
- 鯉沼 聡 近畿大学医学部第一解剖学教室 〒589-8511 大阪狭山市大野東377-2
- 大塚 正人 東海大学医学部分子生命科学2 〒259-1193 伊勢原市望星台
- 平手 良和 〒351-0035 朝霞市朝志ヶ丘4-5-15 タイワード朝志311

正会員→学生

- 四宮 愛 新潟大学大学院自然科学研究科 〒950-2181 新潟市五十嵐二の町8050
- 目崎 喜弘 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命工学専攻核内情報研究室
〒113-0032 文京区弥生1-1-1

<住所変更>

- 右藤 文彦 浜松医科大学大学生物学教室 〒431-3192 浜松市半田山1-20-1
- 佐藤 英二 浜松医科大学大学生化学第二 〒431-3192 浜松市半田山1-20-1
- 山濱 由美 浜松医科大学大学生物学教室 〒431-3192 浜松市半田山1-20-1
- 三浦 直行 浜松医科大学大学生化学第二 〒431-3192 浜松市半田山1-20-1
- 福田 公子 Dept. of Anatomy and Developmental Biology, Unic. Coll. London
Gower St., London WC1E 6BT, U.K.
- 荒木 和男 水産総合研究センター養殖研究所遺伝育種部 〒519-0423 三重県度会郡玉城町昼田224-1
- 島田 拓 〒730-0003 広島市中区白島九軒町24-3-1002
- 茗原眞路子 農業生物資源研究所遺伝育種部 〒305-8634 つくば市大わし1-2

松原 悠子	農業技術研究機構畜産草地研究所育種部遺伝子制御研究室	〒305-0901	茨城県稲敷郡茎崎町池の台2
岡野 栄之	慶應義塾大学医学部生理学教室	〒106-8582	新宿区信濃町35
河野 友宏	東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科	〒156-8502	世田谷区桜丘1-1-1
木谷 裕	農業技術研究機構動物衛生研究所	〒305-0856	つくば市観音台3-1-5
内藤 充	農業技術研究機構畜産草地研究所育種部遺伝子制御研究室	〒305-0901	茨城県稲敷郡茎崎町池の台2
春海 隆	農業技術研究機構畜産草地研究所育種部遺伝子機能研究室	〒305-0901	茨城県稲敷郡茎崎町池の台2
嶋田 新	農業技術研究機構畜産草地研究所繁殖部生殖内分泌研究室	〒305-0901	茨城県稲敷郡茎崎町池の台2
平尾 雄二	農業技術研究機構東北農業研究センター畜産部家畜繁殖研究室	〒020-0198	盛岡市下厨川字赤平4
中山 一郎	水産総合研究センター中央水産研究所	〒236-8648	横浜市金沢区福浦2-12-4
美濃川拓哉		〒187-0002	小平市花小金井2-14-39
安井 金也	熊本大学発生医学研究センター胚形成部門形態形成分野	〒860-0811	熊本市本荘2-2-1
田上 貴寛	農業技術研究機構畜産草地研究所	〒305-0901	茨城県稲敷郡茎崎町池の台2
岡本 裕之	水産総合研究センター養殖研究所	〒519-0423	三重県度会郡玉城町昼田224-1
三浦 正幸	理化学研究所脳科学総合研究センター細胞修復機構研究チーム	〒351-0198	和光市広沢2-1
鈴木 徹	水産総合研究センター養殖研究所栄養代謝部代謝研究室	〒519-0423	三重県度会郡玉城町昼田224-1
彦野 弘一	農業技術研究機構動物衛生研究所分子病理研究室	〒305-0856	つくば市観音台3-1-5
有賀 千浪	文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命倫理・安全対策室	〒100-8966	千代田区霞が関2-2-1
岡野(内田)孝幸	群馬大学医学部医学科分子病態学教室	〒371-8511	前橋市昭和町3-39-22
荻野由紀子	熊本大学動物資源開発研究センター技術開発分野	〒860-0811	熊本市本荘2-2-1
川上 浩一	東京大学医科学研究所	〒108-8639	港区白金台4-6-1
佐伯 知明	農業生物資源研究所生体情報部上席研究官室	〒305-8634	つくば市大わし1-2
二階堂昌孝	水産総合研究センター養殖研究所玉城分室細胞工学研究室	〒519-0423	三重県度会郡玉城町昼田224-1
笹岡由美子	国立遺伝学研究所系統生物研究センター発生工学研究室	〒411-8540	三島市谷田1111

小澤鏝二郎	国立精神・神経センター神経研究所	〒187-8502	小平市小川東町4-1-1
寺門 潔	埼玉大学理学部生体制御学教室	〒338-8570	さいたま市下大久保255
藤沢 弘介	埼玉大学教育学部理科教育講座	〒338-8570	さいたま市下大久保255
岡 敦子	獨協医科大学解剖学(組織)教室	〒321-0293	栃木県下都賀郡壬生町北小林880
小松 靖彦	(株)医薬分子設計研究所	〒113-0033	文京区本郷5-24-5 角川本郷ビル4F
末光 隆志	埼玉大学理学部生体制御学科	〒338-8570	さいたま市下大久保255
弥益 恭	埼玉大学理学部生体制御学科	〒338-8570	さいたま市下大久保255
山崎 剣	早稲田大学教育学部生物学教室	〒169-8050	新宿区西早稲田1-6-1
久保 英夫	東京都臨床医学総合研究所生体膜研究部門	〒113-8613	文京区本駒込3-18-22
望月 俊昭	(財)癌研究会癌研究所生化学部	〒170-8455	豊島区上池袋1-37-1
宮崎 敦子	Aa's Laboratoryバイオイメージングセンター	〒221-0841	横浜市神奈川区松本町6-45-12-404
西野光一郎	東京大学大学院農学生命科学研究科細胞生化学研究室(生研機構)	〒113-8657	文京区弥生1-1-1
成瀬(中島)智恵	金沢大学医学部動物実験施設	〒920-8640	金沢市宝町13-1
小野寺 浩	埼玉大学理学部生体制御学科	〒338-8570	さいたま市下大久保255
平手 良和	理化学研究所脳科学総合研究センター発生遺伝子制御研究チーム	〒351-0198	和光市広沢2-1
菊田 寛	埼玉大学理学部生体制御学科発生学研究室	〒338-8570	さいたま市下大久保255
塩井 剛	京都大学再生医科学研究所再生増殖制御学分野 瀬原研究室	〒606-8507	京都市左京区聖護院川原町53
遠藤 浩良		〒220-0102	神奈川県津久井郡城山町原宿4-3-19
塩川光一郎		〒822-0101	福岡県鞍手郡若宮町福丸213
藤本十四秋		〒700-0936	岡山市富田267-1-305
勝木 元也	岡崎国立共同研究機構基礎生物学研究所	〒444-8585	岡崎市明大寺町字西郷中38
茗原眞路子	農業生物資源研究所発生分化研究グループ発生機構研究チーム	〒305-8634	つくば市大わし1-2
沢田美智子	産業技術総合研究所北海道センター生物遺伝子資源研究部門	〒062-8517	札幌市豊平区月寒東2条17丁目2-1
川上 厚志	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻分子発生学研究室	〒113-0033	文京区本郷7-3-1
内藤 充	農業生物資源研究所発生制御研究チーム	〒305-0901	茨城県稲敷郡茎崎町池の台2
岩井裕希子	セレスター・レキシコ・サイエンシズ(株)筑波R&Dセンター	〒300-2635	つくば市東光台5-9-9 筑波研究コンソーシアム第三サテライト

浜 千尋	理学研究所発生・再生科学総合研究センター B棟神経回路発生研究 T	〒650-0047	神戸市中央区港島南町2-2-3
加藤 和人	京都大学人文科学研究所	〒606-8501	京都市左京区吉田牛ノ宮町
小林 悟	岡崎国立共同研究機構総合バイオサイエンスセンター	〒444-8585	岡崎市明大寺町字西郷中38
松村 清隆	姫路気象(株)	〒672-8016	姫路市木場1417-1
石橋 祥子	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科	〒630-0101	生駒市高山町8916-5
金井 昭夫	慶應義塾大学先端生命科学研究所バイオラボ棟	〒997-0017	鶴岡市大宝寺日本国403-1
榎川 真樹	岡山大学理学部生物学科再生発生研究室	〒700-8530	岡山市津島中3-1-1
岡林 浩嗣	杏林大学医学部解剖学第二講座	〒181-8611	三鷹市新川6-20-2
西原 克成		〒169-0075	新宿区高田馬場2-7-3
柴田 典人	岡山大学理学部生物学科再生発生研究室	〒700-8530	岡山市津島中3-1-1
澤 斉	理化学研究所発生再生科学総合研究センター細胞運命研究チーム	〒650-0047	神戸市中央区港島南町2-2-3
芝田 英生	ファイザー製薬(株)中央研究所生物科学研究総括部探索科学部	〒470-2393	愛知県知多郡武豊町5-2
鯉沼 聡	近畿大学医学部第一解剖学教室	〒589-8511	大阪狭山市大野東377-2
小林 大介	国立遺伝学研究所初期発生生物部門	〒411-8540	三島市谷田1111
上原真理子	帝京医学技術専門学校臨床検査科	〒151-0071	渋谷区本町6-31-1
中山 卓哉	Dept. of Biology, Gilmer Hall, Rm.253, Univ. of Virginia		P. O. Box 400328, Charlottesville, VA 22904-4328, U.S.A.
池谷 真	京都大学再生医科学研究所再生誘導研究分野(笹井研)	〒606-8507	京都市左京区聖護院川原町53
嶋田 益弥	北海道大学大学院薬学研究科分子細胞薬学講座	〒060-0812	札幌市北区北12条西 6 丁目
山田-稲本知子	熊本大学発生医学研究センター胚形成部門細胞複製分野	〒862-6581	熊本市九品寺4-24-1
四宮 愛	新潟大学大学院自然科学研究科	〒950-2181	新潟市五十嵐二の町8050
池上 陽子	科学技術振興事業団近藤誘導分化プロジェクト	〒565-0871	吹田市山田丘1-3
長野 隆志	熊本大学発生医学研究センター胚形成部門形態形成分野	〒860-0811	熊本市本荘2-2-1
宮本 達雄	京都大学大学院医学研究科分子細胞情報学講座	〒606-8501	京都市左京区吉田近衛町
堂口 裕士	国立小児医療研究センター先天異常研究部	〒154-8509	世田谷区太子堂3-35-31
瀬原 淳子	京都大学再生医科学研究所	〒606-8507	京都市左京区聖護院川原町53
田崎 啓	姫路工業大学理学部	〒678-1297	兵庫県赤穂郡上郡町光都3-2-1
笹村 剛司	東京理科大学基礎工学部生物工学科松野研究室	〒278-8510	野田市山崎2641

清水 正幸 熊本大学発生医学研究センター初期発生分野 〒860-0811 熊本市本荘2-2-1

目崎 喜弘 東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命工学専攻核内情報研究室
〒113-0032 文京区弥生1-1-1

斎藤 大樹 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター七飯淡水実験所
〒041-1105 北海道亀田郡七飯町桜町478-1

金谷 直子 大阪大学先端科学技術共同研究センター第三内科・先端研
〒565-0871 吹田市山田丘2-1

若松 鷹司 〒448-0001 刈谷市井ヶ谷町寺山下16

田畑 純 鹿児島大学歯学部口腔解剖学第一教室 〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

久保田幸彦 理化学研究所発生・再生科学総合研究センター細胞移動研究チーム
〒650-0047 神戸市中央区港島南町2-2-3

有賀 千浪 田辺製薬(株)創薬研究所探索毒性ユニット 〒335-8505 戸田市川岸2-2-50

平手 良和 理化学研究所脳科学総合研究センター発生遺伝子制御研究チーム
〒351-0198 和光市広沢2-1

諸熊 淳治 基礎生物科学研究所発生生物学研究系形態形成研究部門上野研
〒444-8585 岡崎市明大寺町字西郷中38

平田 昌 徳島大学総合科学部自然システム学科細胞制御学研究室
〒770-8502 徳島市南常三島町1-1

難波 大輔 大阪大学医学部保健学科基礎生体情報講座分子生化学教室
〒565-0871 吹田市山田丘1-7

原口 竜摩 熊本大学動物資源開発研究センター技術開発分野 〒860-0811 熊本市本荘2-2-1

栗山 正 〒860-0812 熊本市熊本4-8-25 パークサイド南熊本106

井垣 達吏 理化学研究所脳科学総合研究センター細胞修復機構研究チーム
〒351-0198 和光市広沢2-1

豊田 礼子 東北大学加齢医学研究所分子神経研究分野仲村研 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1

<退会>

越 田 豊	水 野 敦 子	黒 尾 誠	黒 田 裕 樹	平 沼 勉
川 辺 祥 子	三 枝 理 博	斉 藤 芳 和	鈴 木 美 穂	武 田 忍
相 原 仁	信 定 福 明	石 野 智 子	福 永 陽 二	石 田 佳 子
薄 井 紀 子	慶 野 宏 臣	沢 田 知 夫	近 藤 俊 三	川 村 光 毅
辻 岡 政 経	澤 井 哲	栗 原 靖 之	豊 野 孝	久 保 亮
近 藤 朋 子	乙 黒 敬 生	晴 披 智 美	豊 島 邦 昭	須 藤 英 文
福 田 勝 之				

〔賛助会員〕

生命誌研究館

〒569 高槻市紫町1-1

-1125 TEL 0726-81-9750

先端テクノロジーをサポートする日京テクノス(株)

〒113 文京区本郷2-17-8鈴木ビル

-0033 TEL 03-3814-2066

三菱化学生命科学研究所

〒194 町田市南大谷11号

-8511 TEL 0427-24-6226

(有)共進理工“細胞分別”ナイロンメッシュ

〒113 文京区本郷5-13-1ドエル本郷205

-0033 TEL 03-3813-1073

賛助会員へのご入会のお願い

日本発生生物学会

会長 竹市 雅俊

近年、ライフサイエンス、バイオテクノロジー等の言葉が広く語られ、生物学に大きな関心と注目が払われるようになってまいりました。

日本発生生物学会は、発生生物学の進歩と普及をはかるため設立された学会で、日本を主に、外国の発生学者を混じえて約1,300名を結集しております。発生学は、言うまでもなく医学・農学等の諸分野とも深い関連を有しており、最近とみに進展の著しい遺伝情報発現をめぐる諸問題、癌細胞の基礎的研究、老化の問題等も発生生物学の大きな関心の的になっております。日本発生生物学会は、これらの分野での活発な研究者を会員としております。又、本学会の刊行致しております欧文誌“Development, Growth and Differentiation”(DGD)もこの方面の国際的学術雑誌として高く評価されております。

貴社におかれましては、このような学問の重要性をすでに御承知のことと存じます。何卒、本学会趣旨に御賛同の上、賛助会員として本会を御支援賜りますようお願い申し上げます。

なお、賛助会員は年3回発行される「インフォメーション・サーキュラー」誌上に特記され、本会の刊行する欧・和文刊行物（会員名簿を含む）が配布されます。会費は、一口三万円を申し受けております。御入会の際は、入会申込書を事務局までお送り下さい。

連絡先：日本発生生物学会事務局（井出宏之）

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学大学院理学研究科生物学教室内

TEL:022-217-3489 FAX:022-217-3489

e-mail:jsdb@bcasj.or.jp

切-----り-----取-----り-----線

日本発生物学会賛助会員入会申込書

年 月 日

賛助会員として入会の申し込みを致します。

(口 四)

住 所 _____

会 社 名 _____ (印)

担当者名 _____

電話番号 _____

広告掲載のお願い

日本発生物学会は理学、医学、薬学、農学をはじめ分子生物学、細胞生物学、遺伝学など、さまざまな生物学分野で発生物学の基礎研究に興味を持つ内外の研究者によって組織されている学会であり、国内外に約1,300人の会員を持っております。

英文学術雑誌 *Development, Growth and Differentiation* は、日本発生物学会の機関誌で年6回発行し、国内に約1,200部、国外に約600部配布致しております。また会員にはインフォメーション・サーキュラーを年3回配布致しております。

目下、本学会では広告主を募っております。会員各位におかれましても広告主のご紹介等、是非ご協力頂きますようお願い致します。

広 告 料

DGD本誌	1 頁	年6回	150,000円
	半 頁	〃	78,000円
インフォメーション	1 頁	年3回	90,000円
サーキュラー	半 頁	〃	45,000円

尚、サーキュラー用の版下作製代は実費をいただきます。裏表紙は1頁10,000円高となります。

申込先：日本発生物学会事務局（井出宏之）

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大学大学院理学研究科生物学教室内

TEL:022-217-3489 FAX:022-217-3489

e-mail: jsdb@bcasj.or.jp

----- 切 り 取 り 線 -----

広告申し込み書

年 月 日

日本発生物学会 御中

広告の掲載をお願いしたく下記の通り申し込みます。

☐ DGD本誌	1 頁
☐ 〃	半 頁
☐ サーキュラー	1 頁
☐ 〃	半 頁
住 所	
会 社 名	
担当者名	
電話番号	

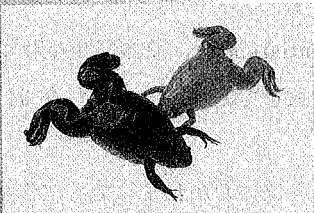
印

XENOPUS
Oocyte

ホームページ開設

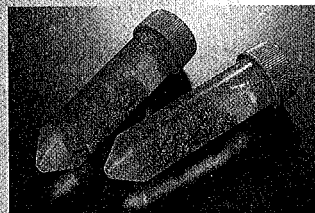
XENOPUS

- 恵まれた自然環境の下で育った良質のアフリカツメガエル。

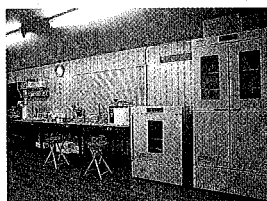


Oocyte

- 飼育管理に時間をとれない方や、実験を効率よく進めたい方にはOocyteを直送致します。



<http://www.copacetic.co.jp>



COPACETIC

株式会社コパセティック

〒036-1511 青森県中津軽郡相馬村大字坂市沢113-3

TEL 0172(84)3509 FAX (84)3510

フリーダイヤル：0120-084896

フリーダイヤル ゼノパスはクローン

カール ツァイス パーソナルコンフォーカルシステム

LSM 5 PASCAL

Personal Laser Scanning confocal

New!

新設計の小型軽量化スキャンング
モジュール

New!

新開発レーザーコントロール・
モジュール

New!

ユーザが簡単に交換可能な
ビームスプリッター、
蛍光フィルター類



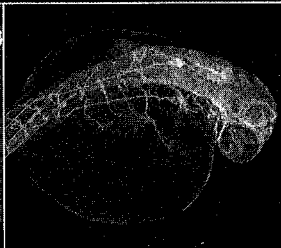
C. elegans with embryos, autofluorescence + DIC, (single frame out of time series). (Sample courtesy of Dr. Afaq, MBL Woods Hole)



Fetal small intestine, double fluorescence, stereo projection (Dr. Hashimoto, Jikei University, Tokyo)



Drosophila brain, neural circuit indicated with GFP (Dr. Ito, NI of Basic Biology Lab, Okazaki)



Zebrafish embryo, neurons (green), NCAM (red) (Dr. Marx, Dr. Bastmeyer, Uni Konstanz)

- システムはフルオートでコントロール及び設定可能
- 2048 x 2048/12bit/各チャンネルの高画質
- DSP 技術を用いた多彩なスキャンモード
- マルチトラッキングスキャンにより、多重蛍光標本の蛍光波長のかぶりを解消
- 多彩な 2D、3D 解析機能と、画像管理に便利なイメージデータベース
- タイムコースソフトウェアによる多彩な時間解析機能、外部トリガ機能

このほかにも数多くの新開発・新設計・すぐれた技術が搭載されております。

輸入/販売元
カール ツァイス 株式会社
顕微鏡部

〒160-0003 東京都新宿区本塩町 22 番地
Tel 03-3355-0332 Fax 03-3358-7554
URL <http://www.zeiss.co.jp>
営業所：大阪/名古屋/福岡/仙台

